

一般社団法人 埼玉私保連



広報

No.133

H29. 10月

発行



ツリーハウス
ここは ぼくらの
秘密基地

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

平成30年度 保育関係予算要望についての県面談

平成29年9月5日(火)
埼玉会館3C会議室



県からは、
少子政策課
より高島課
長はじめ5
名、社会福
祉課から1
名が出席さ
れました。

要望書の
回答につい
ては、特筆
すべき内容
はありません

んでしたが、お互いの理解を深める良い
機会になりました。

まず保育士処遇の県単独補助金につい
ては、県としては「離職率が高い」「都内
や県外に保育士が流れている」などの
データがなく、「新園は問題なく開園でき
ている」との話でした。逆を言えば、
データがあれば検討できるということ
です。しかし、新園は開園できているかも

しれませんが、「保育士が見
つからないた
めに定員を減
らしている」
という園はあ
るはずですよ。
そういった情報も県に上げていければと
思います。少子政策課からは「給与の格
差によって保育士が流失しているという
情報があれば一緒に対策を考えていき
たい」との発言がありました。

会員からは、処遇改善Ⅱについて、
「県で、こういう風に出ればうまくいく
など雛形や例を出して欲しい」「そうす
ること矛盾や問題点を共有できるであ
ろう」との話もありました。県からは行政
の人間は経営の諸問題のプロではないし、



保育士確
保も処遇
改善も園
によって
違うため
会員同士
で成功事
例の情報
を共有し
ていくと
いいので
はないか
とのお答
えでした。

〈要望事項についての共有しておきたい回答〉



・4,5歳児については
国も25対1を検討して
いる。早期に実現する
よう国に要望する。

・産休代替職員につ
いて、今年は日額
6,750円となった。
来年度は日額6,960
円に改善する方向。保
育士だけの補助事業で
はないので、金額は現
状維持が精一杯。打ち
切りがないよう努めて

いく。金額を上げるとなると、希望する方全員に支
弁が難しくなる。産休代替職員が見つかからない場合
は、以前から勤務している職員でも条件により可能
となるので県にご相談を。

・派遣保育士の活用が2.9%。県としてもこれを避
けたいところであり、各園でも勤めている保育士が
離職されるときは、埼玉県保育士・保育所支援セン
ターに登録を勧めしてほしい。

・発達障害の子のデータについて、全体のデータがあ
り、それによれば1193施設のうち発達障害615
名、その他、気になる子は998名(615名は除く)。
障害児保育については、平成14年以前は市町村から
補助が出せなかったが、それ以降、一般財源になっ
たので、市町村の規模によって支払われるようになって
きた。手帳がなくてもだせる(市単独補助)とのこと
である。

(報告：予対部)

施設訪問ごんじちは

訪問先(比企郡小川町)

自然が育むこころとからだ

小川保育園

園長 尾島満矢先生

こねんこ ぽんぽん

周囲を緑豊かな外秩父の山に囲まれ、市街地の中央に槻川が流れる小川町は、歴史を誇る小川和紙や小川絹、建具、酒蔵などの伝統産業で古くから栄え、その史跡や往時の面影を留める街並みの風情から、「武蔵の小京都」と呼ばれています。



地場産業には多くの女性が労働に従事していました。和紙や生糸を背負い、子どもの手を引いて行商に行く女性の姿を見て、幼児教育の必要性を痛感された1人の牧師が、1943年、小川教会内に小川愛児園を開設したのが、小川保育園のはじまりです。

現在は、有機農業を志しインターンしてきた若い家族や、育休復帰後に兄弟を同じ保育園に通わせたという保護者の要望に応えるべく、2017年乳児棟を新築して乳児保育の一層の充実を実現、定員100名で、延長保育や「赤ちゃんサミット(育児懇談会)」などのユニークな子育て支援などにも積極的に取り組んでいます。大学や会社の夏休みを利用してふっと園を訪れる卒園生がいる中、幼児期にふるさと小川の自然に触れ、美しい景色に出会うことが、将来の心の砦になる事と感じながら、豊かな保育体験を大切にしています。



保育園の一日
大切にしている6つの体験…

幼児期は、人間の根っこを育てる時期。遊びや生活の全ての活動が感性を育てます。そして「聞いたことは忘れる、見たことは覚えられない、体験した事は理解できる。(ブルーノ・ムナリー)」を合言葉に、子どもの成長・発達にとって大切である「体験」を、6つの柱にまとめ実践しています。

I「土・水・太陽」
子どもたちは園庭で時間を忘れ、素足で土や水に触れて、仲間と知恵を出し合い、泥団子、川や橋やダムや島など、いろいろなものを創りだします。今年は保護者有志

が作ってくれたツリーハウスやじゃぶじゃぶ池ができた事で、子どもの遊びの場が多様になり、思い思いに自分で遊びを選び、より冒険が広がります。土と水があれば夢中になって遊べる子どもらしい姿を応援できるよう、水道にバケツにジョーロなど子どもが自分で出来るよう環境の整備が欠かせません。園外では、山に登り、なし狩りやみかん狩り、川遊び、ザリガニ釣りなどの季節折々の自然体験が満載です。

II「食農体験」
保育園の畑では、有機農家の方のアドバイスをうけ季節ごとに野菜をつくっています。夏にはキュウリ、いんげん、ミニトマト、なす、ピーマンなどを子どもたちが汗だらけ、泥だらけになって収穫！採れたて野菜の美味しさに感動もひとしおのようです。



大豆を育て味噌づくりをしたり、小麦を育てパンを焼いたり、有機農法でお米を育ててみたりすると、その過程で様々な農作業があります。農家の方が、「農作業は子どもからお年寄りまでみんなに仕事がある。」とおっしゃっていました。小さな子どもの手は、草取りや大豆を分けたり、もみ殻を除去したり、と大活躍します。突き出た脳と言われる手指の活動を豊かにし、働いて食べるといふ人間の営みを学ぶ事ができるのが、食農作業です。

Ⅲ「物作り」
自分でつくることは、自立すること。それぞれの行事に合わせて子どもたちは自分で使うものを作りします。その事で、行事への関心や夢がふくらみ参加する意欲が育ちます。雑巾にはじまり、夏のキャンプに持っていくリュック、運動会の縄跳び、布を染め縫い上げる道具入れ、ソリ滑りの毛糸の帽子等です。針を扱う微細な手、三つ編みを固く編める力強い手、畑に種をまく優しい手などの「働ける手」を獲得して自立していくのです。また、親子で一緒に物造りする機会もあります。米・味噌・竹馬・わらじ・陶器の茶碗造りなどを通して、子どもの育ちに

寄り添いながら、親も一緒に成長できるのです。

Ⅳリズム・うた・描く

大切にしているのは、自分を表現することを楽しめること。

ピアノの音が聞こえると、ホールの真ん中に自然と子どもたちがかかって行き、喜びや期待にあふれた表情でリズム運動が始まり、さまざまなイメージをしながら体を動かし、表現することを楽しみます。また、子どもたちは日々の活動の中でイメージしたこと、楽しかった思い、なにかと協力できた充実感や達成感などを、うたを歌うことや、絵を描くことや、造形活動で表現します。園舎の中は、そんな子どもたちの伸び伸びとした作品の展示場のようなです。美術に造詣の深い現園長先生は、子どもたちの作品を一つの答えに押し込めるのではなく、多様な評価を発見し、「すごいねーさすがだね！」とたくさん褒めることで、子どもたちが自己肯定感をもち、色々な角度から物を見たり、考えたり、美を求める探求心・好奇心が育つことが大切であると考えています。また、スポンジやストローや和紙など色々な素材との出会いが子どもの感性をより刺激し、



思わぬ傑作を生みだします。

V「読み聞かせ」

各クラスの文庫には年齢に合わせた本がたくさん置いてあり、1日4〜5冊読み聞かせをしていきます。絵本は子どもの心や言葉を豊かにし、命の尊さなどを自然に教えてくれるのです。また、感性豊かな子どもが毎日触れる玩具は、本物の素材、子どもに響く色彩であるかなど、遊ぶ子どものため第一に考えられたものを選んでいきます。

VI「お父さんお母さんと共に」

保育園では保護者の方が参加できる行事がたくさんあります。また、いろいろなお仕事をしていただく保護者の方の専門的な力をお借りして、子ども達が育つ環境づくりに活かしています。お肉やさんのお協力でソーセージを作ったり、お寿司屋さんでは手巻き寿司を作ってくれたり、お泊り保育のバーベキューやお楽しみ会など様々な参加の仕方があります。出来る時に無理せず楽しく参加する事をモットーに、みんなの親、みんなの子として関わりがもたらしたいと思います。「僕は平日休みだから今日ピザを焼きにきたけど、運

動会は他のお父さんに頑張ってもらいます。」と言って頂いた事があります。こうした環境があってこそ子どもは安心して育つのだと思います。

月次の園だよりのほかにも、随時発行している保育通信では、日々子どもたちの成長の姿や保育の成果だけでなく、保護者の感想がたくさん紹介されていて、保護者同志の交流促進に一役かっています。

乳児棟の新築

…1つの家として…

2017年4月に完成した乳児棟は、防虫・防腐材を一切使用していないオーガニック建材を使用した、安心で安全な木造づくりになっています。漆喰と土壁と和紙を使用し、100%自然素材だから、赤ちゃんが化学物質に触れる心配もありません。設計は古民家再生のエキスパートに依頼、そのコンセプトは、安心して赤ちゃんをあずけられる場所として、思わず「ただいま」と言ってしまうような「家」でした。まさに日本の風土に適し、伝統技法による純和風の乳児棟です。最後に、乳児棟落成式の園長先



生のあいさつを紹介します。

「子育ては文化です。地域や家庭のそれぞれの文化の衣を幾重にも身にまとい子どもは育ちます。そうした幼児期があつて多様な文化を受け入れ、自分の感性を磨くことが出来る人になります。この乳児棟も、小川の和紙文化、日本木造建築の文化、保育の文化が混ざり合いできました。そうした豊かな文化を感じる乳児棟だからこそ、感性を刺激し、五感が育つ空間になっているのかと思います。(尾島満矢園長)」

お忙しい中、施設をご案内いただいた、理事長先生・園長先生・職員の皆様、そして元気な笑顔を

見せてくれた園児の皆さん、園庭で遊んでいたチャポのケコちゃん・ココちゃん、楽しい時間をありがとうございました。小川保育園のますますのご発展をおいのりします。

(文責 広報部)



研修会

「職員同士の良い関係作りを考えた職務分担について考える」

主任・副主任・リーダーの役割

日時／平成29年9月14日(木)
午後1時50分～16時50分

場所／埼玉会館ラウンジ

講師／清水玲子先生

(元帝京大学教授)

新しく創設された「処遇改善等加算Ⅱ」はキャリアアップと給与の上乗せのような国の施策である。ともすると保育現場でわかりにくい格差が生じる恐れ、益々働きやすい職場づくりを困難にさせる可



能性がある。また、東京や千葉と埼玉の賃金格差も生じている。

前半は、保育士が働きやすい職場を作るための職務分担についての講義を受けた。

後半は、グループに分かれてそれぞれの園や立場での悩みなどを話しあい、悩んでいることを発表し、清水先生からアドバイス頂いた。

参加した先生方も、それぞれの立場で悩んでいることがわかり、皆がよりよい保育園でありたいと思う願いは同じなので、共に頑張ろうという気持ちになる研修だった。

〈講義〉

1) 主任の先生の悩みは？

職員から信頼されているのか自信が無い、園長先生との保育の考え方が一致していないのではない不安。会議やシフト編成がうまくできているのか。

2) 職場の先生たちはどんなことで悩んでいるのか？

職員同士、話し合う時間が無い、お互いの保育観を深め合う話し合いができない。

先輩として、新人として、互いにわかりあえてないと感じることがある。

自分がいけない、駄目だと自分を責める。誰も自分をわかってくれないと感じる。

3) 子どもにとっても保護者にとっても職員にとってもよい保育園を作るために考えられることは？

職場全体で子ども理解を深めること
「話し合い」は「果し合い」ではない。

4) チームワークをよりよくするために「職場の人間関係の悩み」について考える

人はみな考えが違ふという当たり前のことを何度も確認する(お互いを人として尊重) 職員同士、保育のちよっとした話が語り合える職場にする。

5) 職場の仕事の分担をどう考えるか

職場の分担がわかりやすいことが必要。担当者は、みんなの意見や提案を集め、打ち合わせをしながら担当する。



みんなで相談したことを、主に報告、相談し、みんなで共有する。
役割分担の交代できる合意を作れるといい。

〈グループ討議と発表〉

↓ は清水先生より

● 保育士が足りていない。中堅職員が不足している(結婚、出産のため)
産休育休中の職員が同時に復



(記録・研修部 三井 美和子)

● 数でてしまい、時短勤務も増えるなど、保育士を確保するのに苦労している。
● 実習生に声をかける、派遣保育士を雇ったり、パートの時給を上げたりして対応している。
● 強い保育士がいるため、職員が意見を言いづらい。どう対応していいかわからない。
● ↓正しいことを言っている中で、共感できることはないか探る。
● 若い先生との距離感がある。聞いても「大丈夫です」と心を開かない。
● ↓子どもの話から入ると共有できる。

埼玉私保連から

署名のお願い

9月末に各園に署名用紙を発送しています。みなさんの御協力をよろしくお願いします!

**子どものよりよい育ちと子育て支援の充実、
保育園や認定こども園の保育をよりよくするために!!**

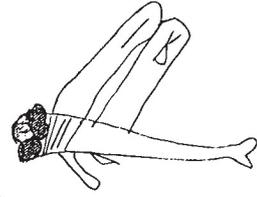
目標30,000筆!

… 編集後記 …

K 広報部長の業務命令（鶴の一声）で十数年ぶりに広報に復帰し、浦島太郎状態です。この間、保育現場を離れ、障がい者福祉の仕事に携わっていますが、あらためて乳幼児期に育てておきたい第一のものは“人との親和性”ではないかと思っています。厳しい躾や体罰で100のスキルを身につけた人よりも、わずかなスキルでも愛され受容されて育った人の方が、豊かな人との関わりの中で、より良い生活をおくられているように思います。障がい児保育に関わっている人は「不便だけど不幸ではない」という確信で、親子を支えてあげられるとよいですね。(S.H)

長い犬との暮らしも10年目を迎えると、お互い目を見るだけで相手の言いたいことがわかります。先日、その犬に「旅に出かけるから留守を頼む」、というと自分も行きたいところがあるようなふりをしました。「どこに行きたいのか?」と聞くと、『たいわん!』、(国内なら)『いせわん!』とのことでした。犬だけに…。(S.K)

事務局 (一社)埼玉県私立保育園連盟
〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
TEL 048 (772) 8623
FAX 048 (772) 8635



保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。
 (公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
 保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
 各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害
 保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、
 保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップ
 しています。また、それらを総合的に補償する
 セットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。
 保護者にとっては
 一般に比べてお得な掛金で
 高額の補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
 保険を取り扱っております。
 ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

